

平成 17 年 3 月 31 日

博多駅開発について

平成 23 年春の九州新幹線全線開通と同時開業を目指す、博多駅開発の概要についてお知らせ致します。今後は本格的な開発に向け、多くの関係者のご理解とご協力を得ながら、具体化の取組みを進めて参ります。

1 開発の趣旨

昭和 38 年に 3 代目となる現博多駅が開業して約 40 年余り。その間、博多駅は、昭和 50 年の山陽新幹線開通や昭和 60 年の市営地下鉄乗り入れなど交通結節点としての重要性を増す中で、お客さまのニーズの変化・多様化に対応しながら、九州・アジアの中核都市、福岡の発展に貢献して参りました。乗降人員も当初の約 7 万人から約 34 万人へと約 5 倍に増加しています。

しかし、社会の変化とともに建物の機能も劣化し、随時リニューアルを行ってきましましたが、お客さまの増加とともに様々な問題が生じてきました。九州の玄関という好立地にあるにも関わらず、天神地区との格差は拡大するばかりとなっております。

博多駅周辺地域は、平成 16 年 5 月に都市再生緊急整備地域に指定され、また、有識者や地元の方々からなる「博多駅地区まちづくり研究会」で将来の開発の方向性が示され、まちづくりの機運も高まっています。九州新幹線全線開通を契機とした九州全体の活性化を目指し、その中核となる博多駅を 21 世紀の「福岡」「九州」「アジア」の顔に相応しい駅にしたいと考えています。

2 開発概要

(1) 規模等

敷地面積	: 約 22,000 m ²
延床面積	: 約 200,000 m ²
階数	: 地下 3 階～地上 10 階
用途	: 駅、複合商業施設(百貨店、専門店、エンターテイメント、サービス) 駐車場、駐輪場等

設計及び関係機関等との協議により、開発概要は変更される場合があります。

(2) 開発の特徴

分かりやすい駅

中央コンコース内に設ける賑わい空間による上下階への動線強化や交通結節機能の向上、新たな動線の創出による博多口と筑紫口の連携強化、2 階デッキによる交通センターなど周辺街区への回遊性の向上、ホームから駅ビル 3 階へ直結する動線の整備などを行い、ご利用のお客様の安全性・利便性の向上を図ります。

また、地下の段差を解消するなどバリアフリーに対応し、すべての人に“優しく”“便利な”“分かりやすい”駅を創造します。

シンボリックな場

福岡、九州の玄関口にふさわしい外観とし、駅と一体となった特徴的な空間、イベント空間、憩いの空間として多数の吹き抜けや屋上庭園を計画し、さまざまな目的で訪れる人々が、それぞれの感性で、多様な魅力を感じて頂けるような、印象的で感動的な“シンボリックな場”を創造します。

賑わいの場

百貨店、多彩な専門店、レストラン街など魅力的な商業集積とともに、ココロ・キモチ重視の時代に合わせた、エンターテインメント機能、サービス機能を備えます。あらゆる世代が、来て・見て・体験して楽しめる“賑わいの場”を創造します。

役立ちの場

駅という立地の良さを最大限に活かし、訪れる人に役立つ情報発信機能、自分磨きのための学び機能、ビジネス機能などを提供すると共に、人々が自らも参加し情報を発信できる場を提供し、地域と九州全体の活性化に繋がる“役立ちの場”を創造します。

(3)外観デザインコンセプト

- 21世紀の「福岡」「九州」「アジア」の顔に相応しい駅づくり
- 時代を超えて飽きのこないデザイン
- 駅のわかりやすさの表現とやさしく人を迎え入れるファサード
- 駅ビルとしての「賑やかさ」を演出

3 スケジュール（予定）

平成 16 年 10 月	博多駅開発に関する基本協定書締結
平成 17 年 4 月	駅業務施設仮設工事着手
平成 18 年 1 月	駅ビル本体工事着手
平成 19 年 4 月	現駅ビル部工事着手
平成 23 年 春	駅ビル開業（九州新幹線全線開通）

工事に伴うご協力をお願い

1日1,000本の列車を運行しながらの難工事であり、安全の確保に最善を尽くします。工事期間中、ご利用のお客さまにはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力を頂きますようよろしくお願いいたします。

